

平成24年度 協働事業振返り調査票

協働事業の名称 課題発見・探究・解決を通じたこどもの参画推進ワークショップ及びフォーラム開催事業
 所属名(団体名) PBLスクール

1 事業の振返り

| 振返り項目 | 振返り結果 1～5を記入 | コメント(理由、感想、気づいたことなど) |
|--|-----------------|-----------------------|
| 1-1 協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。 | 5 | 書類選考、プレゼンを経て、決定した。 |
| 1-2 協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。 | 4 | 子どもの自立を促す方向性、手法が一致した。 |
| 2 目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。 | 4 | 何回も打合せを重ね、共有できた。 |
| 3 目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。 | 4 | 目的が達成でき、次なる目標ができた。 |
| 4 事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。 | 4 | 密に連絡を取り、適宜柔軟に対応できた。 |
| 総合コメント 従前から、協働の取組みを行っていたが、今回の取組みを通し、今後の取組みにつながる課題などを考えることができた。 | | |

2 協働の振返り

| 振返り項目 | 振返り結果 1～5を記入 | コメント(理由、感想、気づいたことなど) |
|--|-----------------|---|
| 1-1 協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。 | 3 | 当初は、お互いの立場について、理解していないところがあり、多少の混乱があった。 |
| 1-2 協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。 | 4 | 地域とのつながりや手法を活かすことができた。 |
| 2 協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。 | 4 | 多少の混乱はあったものの、打ち合わせを密に行う事で明確にできた。 |
| 3 主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。 | 5 | 双方で足りない部分などを補う事ができた。 |
| 4 役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。 | 4 | 明確であったが、当初はそれに縛られすぎてしまうことがあった。 |
| 5 協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等 | 4 | まちの中で子どもがいかに活躍すればよいかなど、WSを通して新たな視点を獲得することができ、今後、他の事業にもつなげることができる。 |
| 総合コメント 協働の取組みにより、これまでの実施方法に加え新たな実施方法を考えることができ、今後の取組みに活かすことができる。 | | |

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。